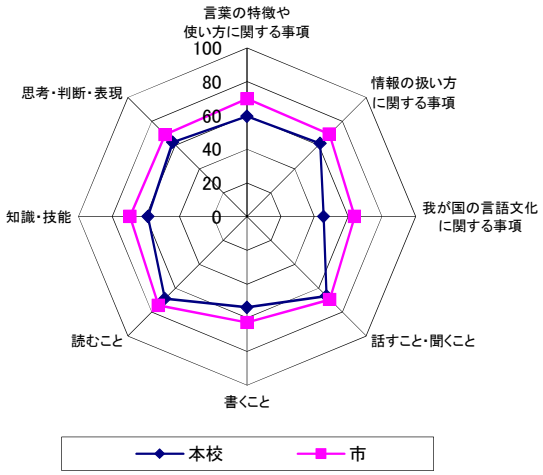
宇都宮市立清原北小学校 第６学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	59.5	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	61.4	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	45.5	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	66.7	69.5	71.5
	書くこと	53.8	62.8	67.1
	読むこと	68.9	74.4	73.7
観点別	知識・技能	58.8	69.4	71.9
	思考・判断・表現	62.4	68.8	70.6

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

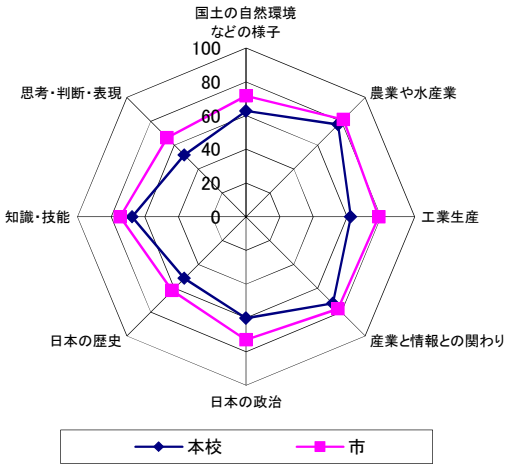
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の平均を10.4ポイント下回っている。 ●5年生の漢字の書き，6年生の漢字の読みの問題では，ほとんどの漢字で市の平均を下回った。 ●文と文との接続の関係を答える問題では，市の平均を8.5ポイント下回った。	・漢字の学習については，ミニテストやステップアップシート等を実施し，朝の学習の時間や家庭学習などでに計画的に取り組ませていく。基礎的な練習だけでなく，文章の中でも漢字を使えるよう継続して指導する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市の平均を7.8ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係について理解し，目的に応じて，文章を簡単に書く問題は，45.5%と市の平均正答率を9.1ポイント下回った。	・資料の内容を読み取って文章に適切に書き表す活動は，社会科など他教科でも取り組み，定着を図る。また，新聞を活用した活動を取り入れ，情報の扱い方を学ばせたり，決められた字数内で記事の内容を簡潔にまとめて書く活動を行ったりしていく。 ・読み手のことを意識しながら情報をまとめる力を伸ばすために，文章を互いに読み合う活動を継続して行う。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市の平均を18.3ポイント下回っている。 ●和語，漢語，外来語について理解している児童が少ない。	・語句の由来や和語，漢語，外来語について，随時ワークシートやミニテストを行って確認し，知識・理解を定着させる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の平均よりやや低い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉える問題の正答率は，市の平均より11.2ポイント上回った。 ●意図に応じて話し方の工夫を選ぶ問題では，市の平均を16.2ポイント下回った。	・聞く力・話す力の育成を図るため，話し手の意図を考えながら話を聞かせたり，自分の立場を明確にして話したりする機会を多く設けるようにする。 ・話合い活動では，互いの立場を明確にして取り組ませたり，司会者の役割を経験させ，考えをまとめるなどの機会を設けたりする。
書くこと	平均正答率は，市の平均を9.0ポイント下回っている。 ○●自分の意見とその理由を明確にして書ける割合は86.4%と高かったが，予想される反論とそれに対する意見を書くことは，市の平均を17.8ポイント下回った。	・定められた条件の中で文章を書く機会を意識的に設け，文章を書くことに慣れさせる。また，相手の意図を正確に捉え，自分の立場や考えを明らかにして考えを述べられるようにする。 ・一人一台端末を活用し互いの文章を読み合い書き方の参考にしたり，自分の文章を推敲したりする時間を設け，要点を明確にした文章を書く力を向上させる。
読むこと	平均正答率は，市の平均を5.5ポイント下回っている。 ●物語文の登場人物の心情について描写を基に捉える問題では，正答率が市の平均を8.9ポイント下回った。 ●説明文においては，叙述を基に文章を捉える問題の正答率が54.5%と，市の平均を10.7ポイント下回った。	・物語文では，情景描写と人物の心情の関連に気付かせ，心情に沿った音読をするなど，より深い心情表現を理解させる指導を継続して行う。 ・説明文では，筆者の考えが記述されている部分に線を引き，筆者の意図を正確に捉えた上で，段落ごとの要旨や文章構造をまとめる活動に取り組ませる。 ・学校図書館を積極的に活用し，読書活動を一層充実させる。

宇都宮市立清原北小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.7	71.6	67.5
	農業や水産業	77.3	81.5	82.1
	工業生産	62.1	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	72.7	77.2	68.2
	日本の政治	60.2	73.1	77.9
	日本の歴史	51.7	62.0	65.8
観点別	知識・技能	67.6	74.6	74.5
	思考・判断・表現	51.8	66.2	65.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

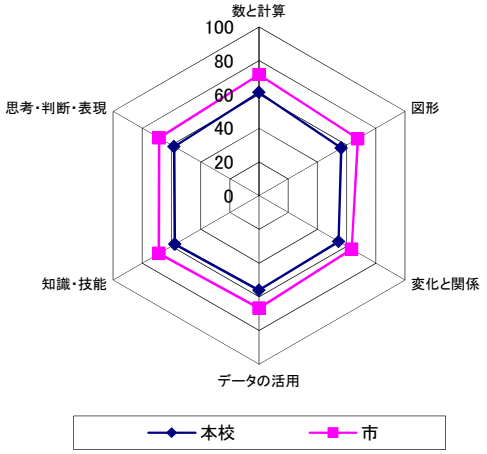
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は，市の平均を8.9ポイント下回っている。 ○自然災害から生活を守る設備について回答する問題では，平均正答率が市より5.3ポイント高い。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに，地図を読み取る問題では，市より14.4ポイント低かった。 ●資料に着目して，森林の働きを捉え，表現する問題では，市の平均より31.6ポイント低い。	・AIドリル等を活用し，日本の有名な山や川，湖の名前と所在している都道府県名を関連付ける活動を行う。 ・調べるねらいやポイントを明確にして資料から分かることや気付くことを挙げるなど，必要な情報の読み取り方を再度確認する。
農業や水産業	平均正答率は，市の平均を4.2ポイント下回っている。 ○カントリーエレベーターに関する問題では，平均正答率が市より8.4ポイント高い。 ●都道府県の位置と農産物の産地の理解ともとに，適切な地図を判断する問題では，市より20.5ポイント低かった。	・白地図に特産品を記入する活動等を通して，都道府県と特産品を関連付けて理解できるようにする。
工業生産	平均正答率は，市の平均を16.6ポイント下回っている。 ●日本の輸出品の資料を読み取る問題では，平均正答率が市より17.9ポイント低かった。	・朝の学習の時間等を活用して資料の読み取り方を再度確認するとともに，資料の内容，意図，分かることの3つのポイントを特に意識しながら資料を読み取ることを繰り返し指導する。
産業と情報との関わり	平均正答率は，市の平均を4.5ポイント下回っている。 ○メディアの特徴について回答する問題では，市より3.8ポイント高い。 ●資料に着目して，コンビニエンスストアの発注システムについて捉え，判断する問題では，市より12.86ポイント低かった。	・コンビニエンスストアの発注システムについて，情報を活用するメリットを考えさせるなど，児童の生活経験と関連付け，実感を伴うような学習課題を設定することで，思考力・判断力・表現力を育成する。 ・新聞等を活用し，知識を広げられるようにしたり，時事ニュースにも関心がもてるようにしたりする。
日本の政治	平均正答率は，市の平均を12.9ポイント下回っている。 ●基本的人権の尊重について，生活の中の具体的事例をもとに判断する問題では，市より21.2ポイント低かった。	・日本国憲法に掲載されている法律が自分たちの身近な生活の様々な場面で関わっていることに気付けるように，新聞記事の社会面を取り上げるなど，生活の中で適宜指導を行う。
日本の歴史	平均正答率は，市の平均を10.3ポイント下回っている。 ●大和朝廷について理解している児童は，市より19.2ポイント低かった。 ●鎌倉幕府が置かれていた場所の資料を読み取る問題では，市より23.9ポイント低かった。	・歴史の用語を再度確認するとともに，現代の地図と比べながら場所や出来事について学習することで理解を深める。

宇都宮市立清原北小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	61.2	71.8	76.2
	図形	56.4	67.7	67.8
	変化と関係	54.5	63.4	62.7
	データの活用	56.1	66.7	61.5
観点別	知識・技能	57.7	68.6	70.7
	思考・判断・表現	58.2	68.5	66.0

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

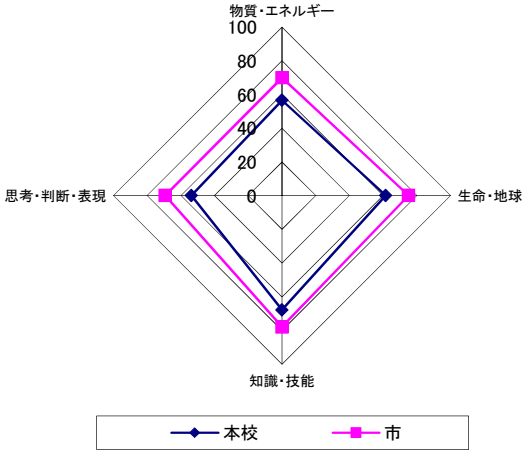
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市の平均を10.6ポイント下回っている。 ○約分を含む分数同士のかけ算では，市の平均を下回ったもののやや高い結果となっている。 ●分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ問題では正答率は40%台にとどまっている。	・分数の文章問題では，数量関係を数直線に表すなどの活動を多く取り入れ，立式の仕方を身に付けさせる。 ・朝の学習や自主学習でAIドリルなどを活用して，分数の計算等に取り組み，基礎の定着を図る。
図形	平均正答率は，市の平均を11.3ポイント下回っている。 ○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では，正答率が77.3ポイントと市の平均よりも1.6ポイント上回った。 ●円と四角形を組み合わせた図形から面積の求め方を選ぶ問題や，円と円の一部を組み合わせてできた形の面積の求め方を選ぶ問題では，ともに正答率が20%台と低い結果となっている。	・合同な三角形の作図では，基本的な描き方に必要な条件を確認してから描く習慣をつける。 ・問題をよく読み，図に答えを導く手掛かりとなる数字や補助線を入れて解き進める習慣を定着させる。
変化と関係	平均正答率は，市の平均を8.9ポイント下回っている。 ○基準量と比較量から割合を求める問題では，市の平均正答率を4ポイント上回った。 ●図から面積と数の割合を求め，どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを考察する問題では，市の平均正答率を16.4ポイント下回った。	・基準量・比較量・割合を明確にし，基準量の違いで比較量が変化することを復習し，数量の比べ方を身に付けさせる。 ・話型を手がかりに，順序立った説明の仕方や，根拠を挙げて理由を述べる方法などを指導し，定着を図る。
データの活用	平均正答率は，市の平均を10.6ポイント下回っている。 ●ドットプロットから中央値を読み取る問題では，市の平均正答率を12.3ポイント下回った。 ●欲しいデータを求めるために必要な正しい情報を選ぶ問題は，市の平均正答率を16.8ポイント下回った。	・代表値が示しているものを再確認し，表やグラフの読み取り方を練習問題で身に付けさせる。 ・円グラフや帯グラフなど，割合と関連のあるグラフの読み取りについてAIドリルを使って復習を行う。

宇都宮市立清原北小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.5	69.9	67.8
	生命・地球	61.5	75.1	73.7
観点別	知識・技能	67.8	77.8	78.4
	思考・判断・表現	53.8	69.4	66.2

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は，市の平均を13.4ポイント下回っている。 ○メスシリンダーの目盛りの正しい読み方，水溶液による物質の見分け方における正答率は，市の平均よりやや高かった。 ●「ふりこのきまり」や「電流のはたらき」における実験条件の比較を問う問題の正答率は，市の平均より低い。	・知識及び理解を定着させるため，単元を通して，目的を明確にし，新しい言葉や分かった概念を整理する活動や新たな知識を互いにプレゼンテーションする活動を取り入れる。 ・思考力・判断力・表現力を向上させるため，実験器具を一つずつ確認しながら条件の違いを整理し，実験結果を予想させたり考察させたりする。
生命・地球	平均正答率は，市の平均を13.6ポイント下回っている。 ○食物連鎖の理解については，市の平均よりやや高かった。 ●植物の発芽と成長における正答率は，市の平均より低い。	・知識及び理解を定着させるため，身の回りの自然現象に目を向けさせ，その仕組みを図や言葉でまとめるなど，新しい知識への関心を高め，理解しやすいようにする。 ・思考力・判断力・表現力を向上させるため，実験や観察の目的とゴールを明確にし，児童の予想や結果，考察がその目的に沿っているかを確認したり，互いの考えを発表する場を多く設けたりする。

宇都宮市立清原北小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童一人一人の達成感や成就感を高める授業づくり	・学習意欲を高める導入の工夫や，めあての提示と見通し，学習の振り返りを徹底した授業づくり ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教材や授業展開の工夫 ・デジタル教材やタブレット等のICT機器の効果的な活用	アンケートにおいて，「学習していて，おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定回答は，全ての学年で85%を超えており，100%の学年もあった。一方で教科に関しては，学年によって苦手意識をもつ教科が異なっていた。上学年では，「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる。」「相手に自分の考えや調べたことを伝えることができる。」の項目で，肯定回答が市の平均より高かった。引き続き児童の興味関心に合った教材づくりや，学習意欲を高める導入の工夫，効果的なICT機器の活用などに取り組んでいく。
家庭学習の充実と習慣化	・自分で計画を立てて家庭学習に取り組めるような宿題の出し方や内容の工夫 ・自主学習の内容例や参考になるよい実践の紹介	３年生以上のアンケートにおいて，「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定回答は，市の肯定割合より高い学年が多かったが，学年によって大きな差が見られた。再度自主学習の進め方を確認したり，よい実践を紹介して参考にさせたりするなど，家庭と連携し，学年に応じたよりよい家庭学習の習慣化を図っていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・基礎・基本の確実な定着を図るための個に応じた指導やICT機器の効果的な活用方法の工夫
・児童一人一人の達成感や成就感を高めるための授業展開の工夫
・自己表現や相互理解・相互交流を促す活動の工夫
・家庭学習の更なる充実を目指した指導